
With Corona (WC) およびAfter Corona (AC) における 歯科医療・口腔保健のNew Normal

神 原 正 樹

New Normal of Dentistry and Oral Health in With Corona (WC) and After Corona (AC)

Masaki Kambara

キーワード：ニューノーマル、ウィズコロナ、アフターコロナ、歯科医療、口腔保健

要 旨

100年前のスペイン風邪以来の感染症（COVID-19）にみまわれ、日本だけでなく世界がその対応に苦慮している。このCOVID-19により、現在の社会の隠されてきたものが表に現れてきているとともに、社会の根底にある諸項目に対し根源的な問い直しが始まっている。そこで、coronaによりわかってきたことをまとめ、after coronaの社会、とくにnew normalについて考えてみた。

1. はじめに

2020年（令和2年）に100年前のスペイン風邪¹⁾以来の歴史的感染症であるCOVID-19感染症が全世界を襲い、感染者数、重症者数および死亡者数をあらゆるメディアが報道し、人々を恐怖に陥らせた。ロックダウンや緊急事態宣言などの社会実験が行われた感染症への対応に終始する中、現在

の世の中の問題点が鮮明に浮かび上がってきたようである。この時点で、with corona (WC) について整理し、after corona (AC) について考えてみた。

2. COVID-19感染で分かったこと

不安定な世の中に不安を感じる状況の中のCOVID-19感染症の拡大は、霧で覆われていたいろいろな懸念を浮上させ、鮮明に示してくれたようである。

1) 世界でわかったこと；

- ・世界のリーダーが誰であるのか、逆にリーダーが不在であること。
- ・感染症への対応が国により異なり、それにより国のリーダーの指導力・危機管理能力が明らかになることが分かったこと。

【著者連絡先】

〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江1-10-11
西谷ビル本館406号

神原グローバルヘルス研究所

神原正樹

TEL&FAX：06-6539-5477

E-mail：mkamba096@gmail.com

受付日：2020年7月30日 受理日：2020年9月2日

- ・国際機関（UN、WHOなど）が機能せず、例えば世界の感染者数はアメリカのジョーンホプキンス大学の感染者世界地図が使用されることが多いこと。
- ・社会的弱者（高齢者や貧困層）に感染、重症化しやすいように、社会的格差が拡大していること。
- ・グローバル化（人・モノ・金・情報が国境を越えて往来する）の歪で感染が拡大すると唱える人がいること。
- ・覇権国家が徹底的な人との接触を強制的に禁じるロックダウンによりCOVID-19感染症の収束に成功し、民主主義国家が人々の自由を優先した結果、収束に手間取っているようであるため、強権国家が優れているように見えること。
- ・人の移動制限により、自動車、飛行機が動かなくなり、工場閉鎖も伴い、地球温暖化の原因であるCO₂の排出量が減少したこと、このことからCO₂の減少は可能であることがわかったこと。
- ・学校が閉鎖され、教育の機会が失われたため、グレタ世代やコロナ世代への支援が必要であること。

2019年から、第4次産業革命が進行し、日本ではSociety5.0²⁾が提案され、時代の転換点にあることが言われ始めていた中でのCOVID-19感染症の拡大で、世界の人々が誰でも感染することがわかり、人類と細菌・ウイルスとの戦闘状態であることを認識し、この状態は、SDG'sで問題とされている温暖化による気候変動、宅地開発などによる人獣近接による感染機会が増大していること、など地球が病んできている。そのため、地球は人間が支配し、人間の地球であると我々人間は考えているようであるが、動植物や細菌・ウイルスが共存する地球であることから、人間の健康のために地球の健康を考えていく必要がある。

2) 日本で分かったこと

- ・突然の学校休校要請、全世帯へのマスク配布、自粛要請と給付金の遅れ等、政府の対応が付け焼刃的であること。

- ・保健所数（10万人に1か所の割合での設置で7百数十か所から4百数十か所）の減少³⁾と保健所機能や人員不足など感染症体制の不整備が明らかになったこと。
- ・検査体制が諸外国に比べ、極端に少なく、かつ改善されないこと。
- ・国と地方との権限が不明確で、意思疎通が取れていないことが明確になったこと。
- ・人口の東京一極集中の弊害が顕在化し、都道府県別感染者数で最多であったこと。
- ・ワクチン開発、承認などの体制が脆弱で、諸外国に頼ることに終始してきたこと。
- ・医療機器、日常衛生商品等、あらゆる物品が輸入依存体制であること。
- ・デジタル化の遅れが諸外国に比べ大きく遅れていることが分かった。このことは、リモート教育、リモート会議の遅れと関連しており、リモートでの教育、働き方を効率的で議論できる方法にしていく検討が必要であること。

日本はロックダウンしなくてもコロナ第1波の収束に成功した。このことに対し、「戦略なき成功」と言われており、言い換えると、日本人の勤勉さ、真面目さといった民度の高さによりコロナ感染第1波を収束させたようである。今後想定される第2波、第3波のコロナ感染に同様のことで解決できるとも言えず、早期に、命を守る医療体制の確立および公衆衛生体制の整備が必要である。

3. コロナ感染と歯科医療・口腔保健

歯科界は、戦後のう蝕多発時代にはう蝕治療に終始し、う蝕学の進展による個人・専門家・公衆衛生それぞれにおける予防のための方法が確立され、う蝕は感染症であると言われていた時から生活習慣病の一つであると認識されるようになってきた。しかし、COVID-19の感染症が到来し、高齢者や基礎疾患保有者が重症化し、死亡に至りやすくなったことがわかってきた。そのため、感染症と生活習慣病の二律背反で疾患の原因を論じるべきでなく、感染症重症化予防のために、生活習慣病の一つである予防可能な歯科疾患を防ぎ、口腔の健

康を維持することが歯科医師の責務である。言い換えると、医療は、命を守る医療と生活を守る医療と、さらに健康を守る医療が相互補完関係にあり、歯科医療は口腔の健康を維持することにより、これら3つの医療に貢献し、全身の健康に寄与することになる。

歯科医療は今回の感染症により、診療現場は大きなダメージを受けた。歯科診療がこの感染症に罹患するリスクが高い職業であるとの報道⁴⁾により受診抑制が生じた。また、感染予防のための診療用マスク、フェースシールド、手袋、消毒液等の用品が海外依存していたため、品不足に陥った。さらに、感染症対策のための歯科医療ガイドラインが確立されておらず、現場の混乱を招く結果となった。

歯科医療の診療、検査、コミュニケーションにおけるデジタル化の遅れが顕著になった。そのため、オンライン診療が認可されたが、歯科においては広く普及するには至らなかった。

第4次産業革命が始まろうとしている最中での感染症の到来により、価値観、ものの見方、人生観、社会システム、経済モデル、消費行動、ライフスタイル、働き方、民主主義等々問い直しが始まっている。歯科医療においても、これを機会に国民皆保険制度を含めて、新たな歯科医療改革模索のスピードを加速することが急務である。

4. 口腔の健康のためのNew Normal

コロナ感染症下において、感染を防ぐための新たな生活様式⁵⁾が提唱され、国民に順守を要請している。それは、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いの3つを基本とし、3蜜（密集、密接、密閉）を避けるようにとしている。この新しい生活様式は、世界ではNew Normalと言われ、社会変容および行動変容を目指している。その基本は、科学的根拠のあるエビデンスに基づく科学的アプローチ（Science-based approach）、アナログからデジタルへの変革（Digitization）、誰一人取り残さない包摂性をもって（Inclusiveness）、グローバルな連帯（Global solidarity）などであり、

持続可能な社会を形成していくために、New Normalを模索し、考案し、実践していくことを目指している。

口腔の健康のためのNew Normalはいかように考えるのかを試行してみた。

- ・個人：学校、職場および家庭での歯口清掃習慣は日本人の健康生活習慣として定着しているが、リモート教育や会議など自宅にとどまる時間が増加している中、回数、方法、清掃用具などについて再考してみる機会ととらえる必要がある。食事については、家庭での食事が増加、インスタント食品、レトルト食品や間食増、栄養バランスの乱れなど、口腔環境の悪化に繋がらない食事の在り方を考えてみることも必要である。また、自宅学習、勤務による運動不足、家族関係や孤立にも社会で支援することなどにも配慮すべきである。
- ・歯科医療：診療受診自粛時の患者とのコミュニケーション不足の解決、リモート診療の効率的な方法、口腔保健指導の非接触での方法、各種口腔検査のデジタル化、視覚化、世代間の口腔格差、さらに多職種連携など、新たな歯科医療、保健指導について変革する機会でもある。
- ・公衆衛生：コロナ禍公衆衛生の重要性が見直され、関心が高まっている状況にある。この中で歯科医療は受診抑制ばかりで、防戦一方のように見える。しかし、口腔の清潔が高齢者の呼吸器疾患の重症化や口腔内細菌による血管疾患の発症と関連するなどを考えると、口腔保健の維持が感染抑制や重症化を防ぐことにつながることになる。そこで、歯科医師の公衆衛生としての立ち位置を、15歳児検診をはじめとした法定歯科検診の在り方、口腔清掃の普及啓発、リモートでの口腔清掃教育など、公衆衛生の中での一つの戦略として明確にアピールすることも必要である。さらに、かかりつけ歯科医を明確にし、地域包括ケアシステムの中に口腔保健戦略を組み込むことが公衆衛生と歯科との重要性を認識することに繋がる。

5. まとめ

WCおよびACのNew Normalで必要なことは、国民性や民度が高い日本人は個人々が科学的根拠に基づき冷静に思考し、判断する習慣 (Science Based Approach) を身に着けることである。そのために、科学者は研究により獲得したEvidenceの情報発信に努め、歯科医師は、これに基づく歯科医療を実践することである。また、コロナ前の口腔保健システムを問い直し、改革の機会ととらえ、その決意を示していくことが国民に口腔保健の重要性に気づかせることになる。

文 献

- 1) 池田一夫ら；日本におけるスペインかぜの精密分析：東京健安研七年报 Ann. Rep. Tokyo Metr. Inst. P. H., 369-374, 2005.
- 2) 内閣府；Society 5.0：https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/ (2020, 6月).
- 3) 厚生労働省健康局健康課；保健所数の推移：http://www.phcd.jp/03/HCsuii/pdf/suii_temp01.pdf (2020, 6月).
- 4) 日本歯科医師会；日本歯科医師会からの受診移管するお願い：<https://www.jda.or.jp/corona/pdf/20200413.pdf> (2020, 4月).
- 5) 厚生労働省；新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例を公表しました：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html (2020, 6月).

New Normal of Dentistry and Oral Health in With Corona (WC) and After Corona (AC)

Masaki Kambara

(Kambara Global Health Institute)

Key Words : new normal, with corona, after corona, dentistry, oral health

Having suffered from an infectious disease (COVID-19) since the Spanish flu 100 years ago, not only Japan but the world is having a hard time dealing with it. With this COVID-19, the hidden things of the present society are appearing in the table, and the fundamental re-questioning of the items underlying the society has begun. Therefore, I summarized what I learned from corona and thought about the after corona society, especially new normal.

Health Science and Health Care 20 (1) : 9–12, 2020